

To Our Shareholders

ご挨拶

15年前、ゲーム開発の会社として生まれたドワンゴは、モバイル向けコンテンツ配信で大きく成長し、多くの優秀な人材が集まりました。彼らの力で産声を上げたのが「ニコニコ動画」です。

ニコニコ動画はこれまで、その潜在的な価値を見込み、利益だけを優先することなく運営されてきました。「赤字を垂れ流している」と非難されたこともあります。しかし、ここから生まれた文化を愛してくれるユーザーの皆さんからのご支援をいただき、開設から4年目に黒字化を果たすことができました。

そして今、ドワンゴは大きな分岐点を迎えています。ニコニコ動画がさらにもう一段階飛躍することができるのかどうか。安定的な収益を生み、革新的なサービスの成長を継続させていくことができるのかどうか。このターニングポイントで必要なこと、それが“ちゃんとした”経営、すなわち「マネジメント」です。

ニコニコ動画は時に大胆に、時にクリエイティブに変貌を遂げてきました。マネジメントは、決してこれを否定するものではありません。私どものクリエイティブな精神を象徴している「ニコニコ超会議」や「ニコファーレ」。これらの取り組みには多くの経営資源が必要になりますが、それでもクリエイティブな手を緩めず、この強みを活かすために必要なマネジメントをすることこそが、私の役割だと考えます。

ドワンゴは「クリエイティブリーダーシップ」の会社です。クリエイティブリーダーシップとは、「テクノロジー」と「コンテンツ」両面の進化で新しい文化を創り出し続けていくことです。インターネットの世界には、才能のある人がまだまだたくさん埋もれています。自ら発信する意欲を持ったネットユーザーが、これほど多く存在している国は日本を於いて他にありません。ドワンゴがテクノロジーを結集して作るオープンなプラットフォームのニコニコ動画で、コンテンツを生み出す才能のあるユーザーの皆さんが活躍する——そんな未来を共に創る、新しいチーム・ドワンゴを作ることが私の経営コンセプトです。



●4月27日、28日「ニコニコ超会議2」を開催

2013年4月27日、28日に幕張メッセ国際展示場1～8 ホールおよびイベントホールにおいて、「ニコニコ動画のすべて(だいたい)を地上に再現する」をコンセプトに、「歌ってみた」「踊ってみた」「描いてみた」「アニメ」「ゲーム」「技術部」「料理」「エンターテインメント」「政治討論」などニコニコ動画のあらゆるジャンルを網羅したユーザー主体の超巨大イベント「ニコニコ超会議2」を開催しました。政治からサブカルまであらゆるジャンルの企画が開催され、素人から有名人まで垣根なく出演者が集まりました。

政党ブースには、自由民主党、民主党、日本維新の会、日本共産党が出展しました。また、安倍晋三内閣総理大臣が来場し、自民党ブースでの演説会や超自民党ブース内の視察、自衛隊ブース・在日米陸軍ブースの視察、超ニコニコ言論コロシアムで挨拶をするなど、会場内は大きな盛り上がりを見せました。

会場来場者数は10万3千人、ネット来場者数509万人を記録し、前回の来場者数及びネット視聴者数を上回りました。



超踊ってみた



超言論コロシアム



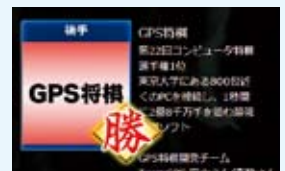
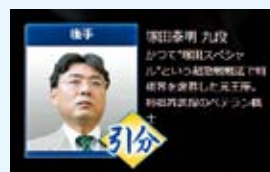
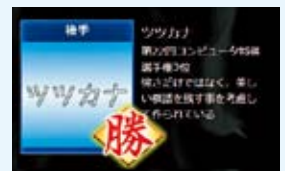
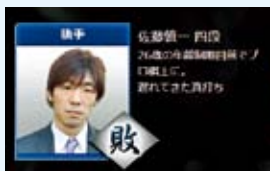
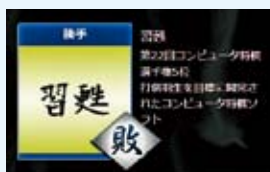
超歌ってみた

●「第2回将棋電王戦」を開催

5人の現役プロ棋士と5つの最強コンピュータ将棋ソフトが闘う、将棋戦「第2回将棋電王戦」を開催。ニコニコ生放送で中継し、合計で200万人以上の方が視聴しました。第22回世界コンピュータ選手権で勝利した上位5チームの将棋ソフトと、それらソフトとの勝負に名

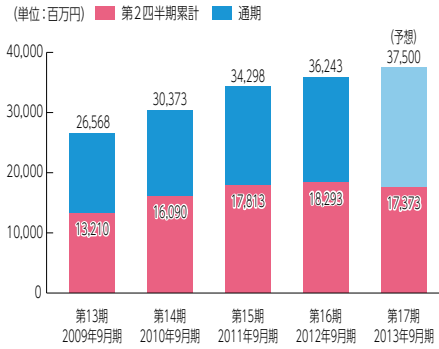
乗りを上げた5人のプロ棋士との間で団体戦が行われ、全5戦の通算成績は、コンピュータ側の3勝1敗1引き分けとなりました。

◆対戦結果

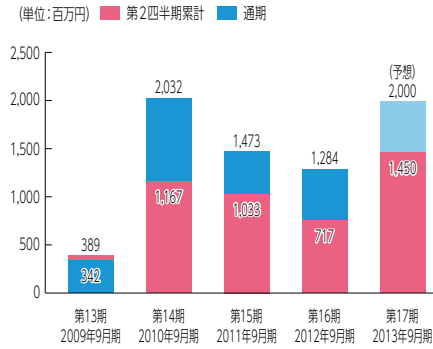


Financial highlights

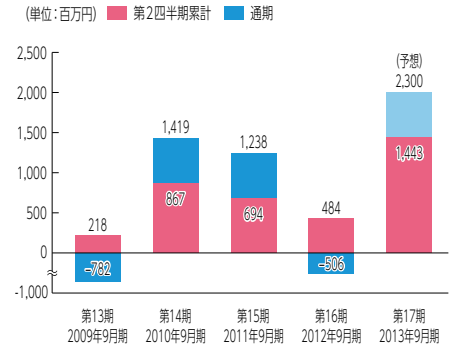
連結売上高



連結経常利益



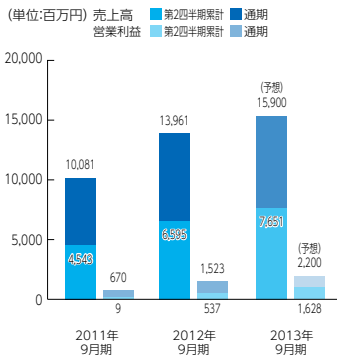
連結当期純利益



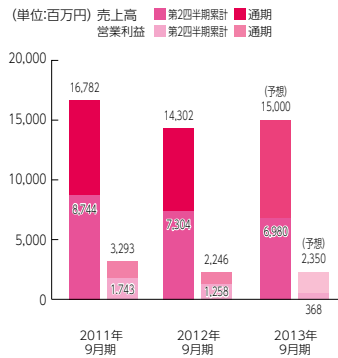
Segment Review

売上高及び営業利益

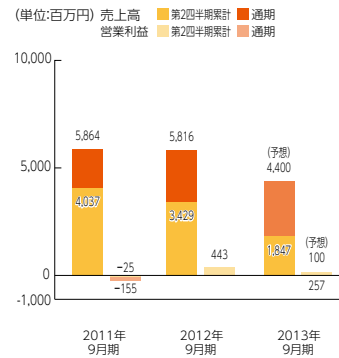
ポータル事業



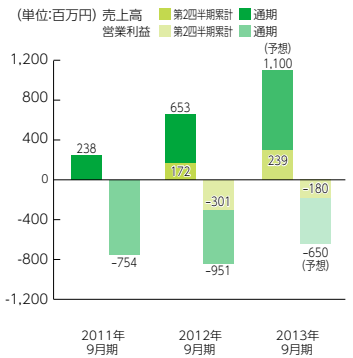
モバイル事業



ゲーム事業



ライブ事業



各事業の概況ですが、ポータル事業においては、登録会員数及びプレミアム会員数が順調に伸長し、平成25年3月末には登録会員数3,255万人、様々な特典が受けられる有料の「プレミアム会員」は189万人となり売上に貢献しています。

モバイル事業においては、効果的な広告を展開したことでスマートフォン会員数は堅調に増加しましたが、従来の携帯電話端末向けの会員数は減少しました。

ゲーム事業においては、株式会社ポケモンと共同開発いたしましたゲームソフト「ポケモン不思議のダンジョン～マグナゲートと∞迷宮(むげんだいめいきゅう)～」などを発売しました。しかしながら、パッケージソフトの大型ブランドタイトル数が前年同期に比

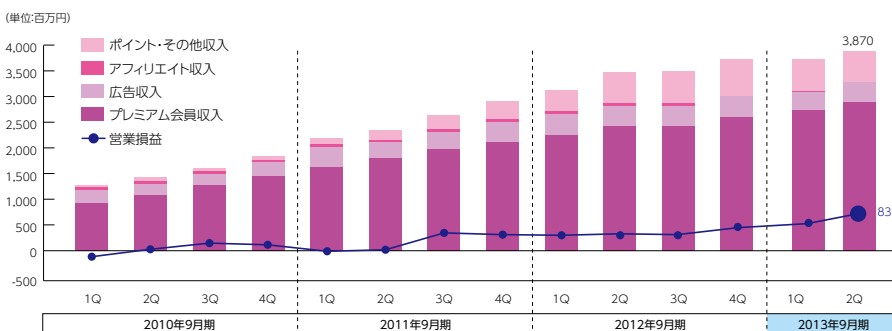
べ少なかつたことにより売上が減少しました。

ライブ事業においては、ライブハウス「ニコファーレ」では、niconico関連のイベントやコンサート、ゲーム系イベントなどを開催した他、各種イベント向けにホールの貸出なども行いました。また、ニコニコミュージカルでは、「千本桜」を公演しました。

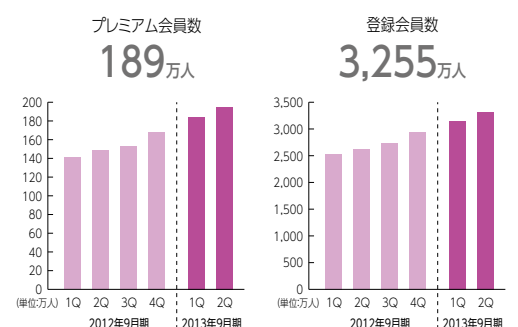
以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高173億73百万円(前年同期比5.0%減)、営業利益14億38百万円(前年同期比73.8%増)、経常利益14億50百万円(前年同期比102.4%増)、四半期純利益は14億43百万円(前年同期比197.7%増)となりました。

「niconico」の業績推移

売上高及び営業損益推移



「niconico」の会員数推移



連結財務諸表(要旨)

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間 2013年3月31日現在	前期 2012年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	15,805	14,754
固定資産	10,194	9,898
資産合計	25,999	24,653
(負債の部)		
流動負債	6,187	6,003
固定負債	369	388
負債合計	6,557	6,392
(純資産の部)		
株主資本	19,249	18,214
その他の包括利益累計額	158	3
少数株主持分	34	42
純資産合計	19,442	18,260
負債純資産合計	25,999	24,653

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自 2012年10月1日 至 2013年3月31日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2011年10月1日 至 2012年3月31日)
売上高	17,373	18,293
売上原価	9,193	11,060
売上総利益	8,180	7,232
販売費及び一般管理費	6,742	6,405
営業利益	1,438	827
営業外収益	53	36
営業外費用	41	147
経常利益	1,450	717
特別利益	4	134
特別損失	5	60
四半期純利益	1,443	484

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自 2012年10月1日 至 2013年3月31日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 2011年10月1日 至 2012年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,033	1,636
投資活動によるキャッシュ・フロー	△837	△1,851
財務活動によるキャッシュ・フロー	△200	△835
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	994	△1,049
現金及び現金同等物の期首残高	6,159	6,997
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,154	5,948

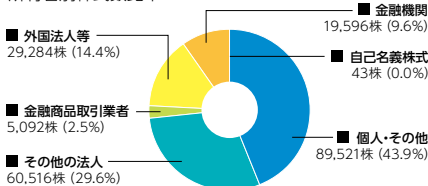
Stock Information

株主の状況

株式の状況 (2013年3月31日現在)

発行可能株式総数 528,000株
発行済株式総数 204,052株
株主数 10,000名

所有者別株式数比率



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
川上 量生	34,395	16.85
株式会社角川グループホールディングス	24,963	12.23
エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社	24,574	12.04
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	17,662	8.65
日本テレビ放送網株式会社	8,163	4.00
横澤 大輔	6,522	3.19
太田 豊紀	4,750	2.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,653	2.28
バンクオブニューヨーク・ジェームズ・エム・クライアント アカウント ジェイ・ビー・アール・ディー アイ・エス・ジー エフイー・エイシー	3,530	1.73
日本証券金融株式会社	3,339	1.63

株主メモ

事業年度	10月1日~翌年9月30日
定時株主総会	毎年12月
期末配当基準日	9月30日 ※その他必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
公告方法	電子公告により行う 公告掲載 URL http://info.dwango.co.jp/ir/ ※なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

会社概要 (2013年3月31日現在)

設立年月日	1997年8月6日
資本金	106億1,630万円
従業員数	単体 385名 連結 965名
事業内容	次世代ネットワークエンタテインメントを対象としたコンテンツ及びシステムの企画、開発、運用、サポート、コンサルティング
役員	代表取締役会長 川上 量生 代表取締役社長 荒木 隆司 取締役 小林 宏 取締役 夏野 剛 取締役 麻生 巖 取締役 佐藤 辰男 取締役 星野 康二 監査役(常勤) 小池 哲 監査役 中田 一男 監査役 鈴木 祐一 監査役 藤田 隆
子会社	株式会社ドワンゴコンテンツ 株式会社ドワンゴモバイル 株式会社スパイク・チュンソフト 株式会社ニワゴ 株式会社キテラス 株式会社ドワンゴ・ユーザーエンタテインメント 多玩國股份有限公司(台湾 台北市)
関連会社	株式会社MAGES. 株式会社スマイルエッジ